

FACSIMILE EQUIPMENT AND FACSIMILE COMMUNICATION SYSTEM

Patent Number: JP5292291
Publication date: 1993-11-05
Inventor(s): FUJINO TORU; others: 01
Applicant(s): CANON INC
Requested Patent: ☐ JP5292291
Application Number: JP19920115385 19920408
Priority Number(s):
IPC Classification: H04N1/32; H04L12/02; H04L29/06; H04M11/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To provide the facsimile equipment which can accurately transmit the transmitting documents of emergency communication to a reception side.
CONSTITUTION: When performing the emergency communication, at a communication control part 41 on the transmission side, data '001' to indicate its mode is set at the upper 3 bits of the octet '4' of an user/user information component UU1, and the data to indicate the degree of urgency in 32 phases is set at the low-order 5 bits. The communication control part 41 on the reception side, when the UUI data exists and in the emergency communication mode, discriminates the operation state at present, compares the degree of urgency inside the user information with the degree of urgency set at present when communicating, and interrupts or releases a call under communication at present corresponding to a prescribed procedure when the degree of urgency for a new incoming call is higher. Then, the call is set at the new incoming call, the degree of the urgency is stored, and the reception is performed in the emergency communication mode.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-292291

(43) 公開日 平成5年(1993)11月5日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 N 1/32		Z 2109-5C		
		L 2109-5C		
H 0 4 L 12/02		8529-5K	H 0 4 L 11/02	Z
		8020-5K	13/00	3 0 5 D

審査請求 未請求 請求項の数 8 (全 20 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平4-115385

(22) 出願日 平成4年(1992)4月8日

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 藤野 徹

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

(72) 発明者 江尻 征志

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

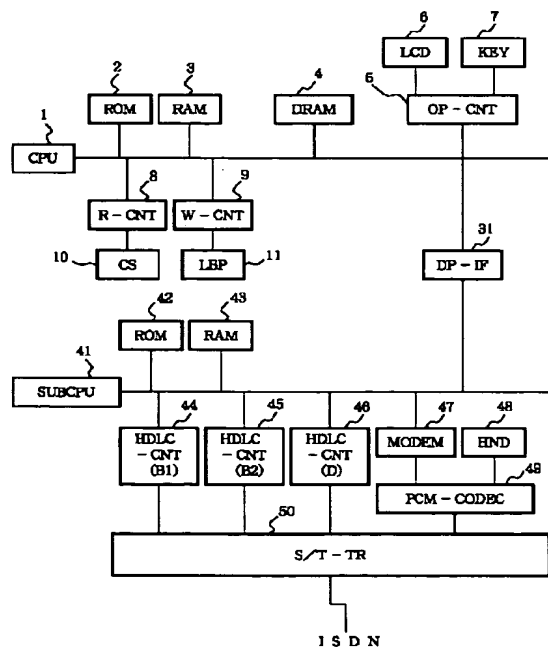
(74) 代理人 弁理士 渡部 敏彦

(54) 【発明の名称】 ファクシミリ装置およびファクシミリ通信システム

(57) 【要約】

【目的】 緊急通信の送信原稿を受信側に確実に送信することができるファクシミリ装置を提供することを目的とする。

【構成】 緊急通信を行う場合には、送信側の通信制御部41においてそのモードを示すデータ「001」がUIのオクテット「4」の上位3ビットがセットされ、その緊急度を3段階で示すデータが下位5ビットにセットされる。受信側の通信制御部41は、UIデータが存在して緊急通信モードの場合には、現在の動作状態を判別し、通信中の場合にユーザ情報内の緊急度と、現在設定されている緊急度を比較し、新たな着呼の方の緊急度が高い場合には、現在通信中の呼を所定の手順に従って中断または解放する。そして、新たな着呼の方に呼を設定し、その緊急度を記憶した後緊急通信モードで受信する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 I SDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に通常通信モードと緊急通信モードを選択的にセット可能であり、また、通常通信モードと緊急通信モードを選択的に実行する機能を有するファクシミリ装置において、

送信側のファクシミリ装置は、緊急通信時にユーザ・ユーザ情報要素に緊急通信モードをセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信し、

受信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素に緊急通信モードがセットされている場合に緊急通信モードを実行することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項2】 送信側のファクシミリ装置は、I SDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に動作モードをセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信し、

受信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素にセットされた動作モードで動作不可能の場合にその呼を拒否することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項3】 I SDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に送信画像の種類をセット可能であり、受信画像の記録紙の種類毎に振り分ける機能を有するファクシミリ装置において、

送信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素に送信画像の種類をセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信し、

受信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素にセットされた種類により受信画像の記録紙を振り分けることを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項4】 I SDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に送信原稿の用件をセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項5】 請求項4に示すファクシミリ装置から送信されたユーザ・ユーザ情報要素にセットされた用件を受信原稿の表紙としてフォーマット化し、受信原稿の前に記録することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項6】 請求項4に示すファクシミリ装置から送信されたユーザ・ユーザ情報要素にセットされた用件を受信原稿のヘッダとして記録することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項7】 サテライト側ファクシミリ装置は、画像データを送信可能な場合に、ユーザ・ユーザ情報要素にポーリング依頼をセットした呼設定信号をセンタ側のファクシミリ装置に送信した後、呼を解放し、センタ側のファクシミリ装置は、サテライト側ファクシミリ装置からのユーザ・ユーザ情報要素にポーリング依頼がセットされている場合に呼を設定してポーリングを行うことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項8】 前記ポーリングにより前記サテライト側

ファクシミリ装置が画像をセンタ側ファクシミリ装置に送信することを特徴とするファクシミリシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、I SDN（統合サービスデジタル網）に接続可能なファクシミリ装置およびファクシミリ通信システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、I SDN対応のファクシミリ装置では、通信中の着信に対しては着端末ビジー等の理由によりこの着呼を一律に拒否するように構成されている。また、自動着信モードで動作している場合には、着信鳴動を行うことなく受信動作を開始したり、数回の鳴動を行った後受信動作を開始したりしてこの動作モードが固定されている。

【0003】また、この種のファクシミリ装置では、呼設定手順が完了して呼が確立した後の手順において動作モードを交渉するように構成されている。なお、この場合には、呼が確立した後から課金されることになる。

【0004】更に、この種のファクシミリ装置では、記録紙の1つの排出部を有し、受信画像を記録紙に記録するとこの1つの排出部に順次積み重ねるように排出するように構成されている。

【0005】また、このようなファクシミリ装置を用いて、センタ側ファクシミリ装置とサテライトファクシミリ装置をI SDNを介して接続したシステムが知られている。このようなファクシミリシステムでは、センタ側がサテライト側に対して送信を勧誘するポーリングが行われ、ポーリングを受けたサテライト側がセンタ側に対して送信を行う。なお、この場合にもセンタ側とサテライトの間の呼が確立した後から課金されることになる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来のファクシミリ装置では、通信中の着信に対しては着端末ビジー等の理由によりこの着呼を一律に拒否するので、緊急を要する通信の場合にも呼が拒否されるという問題点がある。また、たとえ正常に受信された場合にも、記録紙の排出部が1つであるので、緊急通信の記録紙が他の記録紙内に積み重ねられるので、受信者がこの緊急通信に気付かないまま放置するという問題点がある。なお、緊急通信でない場合にも、多種多様の記録紙を分類、整理するために多くの手間と注意が必要になり、複雑な作業を要する。

【0007】また、上記従来のファクシミリ装置では、呼設定手順が完了して呼が確立した後の手順において動作モードを交渉するので、受信側が送信側から支持されたモードを持たない恒久的な要因や、メモリの容量不足のような一時的な要因により正常な通信を行うことができない場合にも課金されるという問題点がある。また、通常のファクシミリ通信では、送信原稿に先立って宛先

や用件、送信枚数等を記述した表紙を付加して送信することが多いが、この表紙の分だけ通信時間が長くなり、通信料金が增加する。

【0008】さらに、上記従来のファクシミリ通信システムでは、センタ側がボーリングによりサテライト側に発呼して回線が接続された場合にもかかわらず、サテライト側に送信原稿がセットされていない場合や送信データが記憶されていない場合のように、画像データを送信不能の場合にも課金され、この無駄な通信に対して課金されるという問題点がある。

【0009】本発明は上記従来の問題点に鑑み、緊急通信の送信原稿を受信側に確実に送信することができるファクシミリ装置を提供することを目的とする。本発明はまた、受信側において多種多様の記録紙を用意に分類、整理することができるファクシミリ装置を提供することを目的とする。本発明はさらに、無駄な通信料金の発生を防止することができるファクシミリ装置およびファクシミリ通信システムを提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を達成するために、ISDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に通常通信モードと緊急通信モードを選択的にセット可能であり、また、通常通信モードと緊急通信モードを選択的に実行する機能を有するファクシミリ装置において、送信側のファクシミリ装置は、緊急通信時にユーザ・ユーザ情報要素に緊急通信モードをセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信し、受信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素に緊急通信モードがセットされている場合に緊急通信モードを実行することを特徴とする。

【0011】本発明はまた、送信側のファクシミリ装置は、ISDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に動作モードをセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信し、受信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素にセットされた動作モードで動作不可能の場合にその呼を拒否することを特徴とする。

【0012】本発明はまた、ISDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に送信画像の種類をセット可能であり、受信画像の記録紙の種類毎に振り分ける機能を有するファクシミリ装置において、送信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素に送信画像の種類をセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信し、受信側のファクシミリ装置は、ユーザ・ユーザ情報要素にセットされた種類により受信画像の記録紙を振り分けることを特徴とする。

【0013】本発明はまた、ISDNにおける呼設定信号内のユーザ・ユーザ情報要素に送信原稿の用件をセットした呼設定信号を受信側のファクシミリ装置に送信することを特徴とする。

【0014】本発明はまた、送信側ファクシミリ装置から送信されたユーザ・ユーザ情報要素にセットされた用件を受信原稿の表紙としてフォーマット化し、受信原稿の前に記録することを特徴とする。

【0015】本発明はまた、送信側ファクシミリ装置から送信されたユーザ・ユーザ情報要素にセットされた用件を受信原稿のヘッダとして記録することを特徴とする。

【0016】本発明はまた、サテライト側ファクシミリ装置は、画像データを送信可能な場合に、ユーザ・ユーザ情報要素にボーリング依頼をセットした呼設定信号をセンタ側のファクシミリ装置に送信した後、呼を解放し、センタ側のファクシミリ装置は、サテライト側ファクシミリ装置からのユーザ・ユーザ情報要素にボーリング依頼がセットされている場合に呼を設定してボーリングを行うことを特徴とする。

【0017】本発明はまた、前記ボーリングにより前記サテライト側ファクシミリ装置が画像をセンタ側のファクシミリ装置に送信することを特徴とする。

【0018】

【作用】本発明は上記構成により、ユーザ・ユーザ情報要素に緊急通信モードがセットされ、受信側が緊急通信モードで動作するので、緊急通信の送信原稿を受信側に確実に送信することができる。また、ユーザ・ユーザ情報要素に動作モードがセットされ、受信側がこの動作モードで動作不可能の場合に呼を拒否するので、無駄な通信料金の発生を防止することができる。さらに、ユーザ・ユーザ情報要素に送信原稿の種類がセットされ、受信側がこの種類において受信原稿の記録紙を振り分けるので、受信側において多種多様の記録紙を用意に分類、整理することができる。また、ユーザ・ユーザ情報要素に送信原稿の用件がセットされ、受信側がこの用件を受信原稿の表紙またはヘッダとして出力するので、送信側の無駄な表紙を省略することができ、したがって、無駄な通信料金の発生を防止することができる。

【0019】また、ファクシミリ通信システムでは、サテライト側ファクシミリ装置は、画像データを送信可能な場合に、ユーザ・ユーザ情報要素にボーリング依頼をセットした呼設定信号をセンタ側のファクシミリ装置に送信するので、送信原稿がサテライト側ファクシミリ装置にセットされていない場合等の無駄な通信料金の発生を防止することができる。

【0020】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。図1は、本発明に係るファクシミリ装置の一実施例を示すブロック図、図2は、ISDN回線におけるユーザ・ユーザ情報要素(UUI)を示す説明図、図3は、図2のユーザ情報の一例を示す説明図、図4は、図1のファクシミリ装置の着呼側の動作を説明するためのフローチャートである。

5

【0021】図1において上方に示すCPU（中央制御部）1は、ROM（リードオンリメモリ）2に予め格納されたプログラムに従ってこのファクシミリ装置全体を制御し、RAM（ランダムアクセスメモリ）3は、このCPU1のワークエリアとして使用される。原稿はコンタクトセンサ（図示CS）10により読み取られ、この読み取り信号が読み取り制御ゲートアレイ（R-CNT）8を介して圧縮符号化され、画像メモリであるダイナミックRAM（DRAM）4に格納される。

【0022】このDRAM4に格納された画像データは、コピーモード時に記録制御ゲートアレイ（W-CNT）9により伸長復号化されてレーザビームプリンタ（LBP）11により記録紙に記録され、ファクシミリ送信モード時にデュアルポートインタフェース（DP-IF）31を介し、図1において下方に示すように通信制御部（SUBCPU）41が制御する通信モジュール42～50に転送され、ISDN回線を介して受信側に送信される。

【0023】また、操作者はキー（KEY）7を押下することにより各種の指示、設定を行うことができ、その内容を表示部（LCD）6の画面により確認することができる。この場合、CPU1はパネル制御ゲートアレイ（OP-CNT）5を介してキー7の入力データを検出し、この入力データに応じて必要なデータを表示部6に表示させる。なお、キー7は発呼先のダイヤル番号や、送信属性（G3/G4）や、緊急通信の度合や、ポーリング依頼などのデータを入力可能である。

【0024】図1において下方に示す通信制御部（SUBCPU）41は、ROM42に予め格納されたプログラムに従ってこの通信モジュール42～50を制御し、RAM43は、この通信制御部41のワークエリアとして使用される。通信制御部41により生成された呼制御データは、HDL C（ハイレベルデータリンクコントロール）コントローラ（HDL C-CNT（D））46により呼制御信号としてHDL Cフォーマット化され、レイヤ1ドライバ（S/T-TR）50により16Kbpsの転送速度でISDN回線の信号（D）チャンネルに送出される。

【0025】また、ISDN回線から受信した呼制御信号は、レイヤ1ドライバ（S/T-TR）50によりデジタルデータとして抽出され、HDL Cコントローラ46によりHDL Cフォーマットがチェックされ、誤りがないデータであることが確認された後、呼制御データとして通信制御部41に通知される。もし、誤りが検出された場合には、再送要求信号がISDN回線に送出され、正しい信号を受信するまで一定の時間、これを繰り返す。

【0026】G4送信データは、HDL Cコントローラ（HDL C-CNT（B1）44または（B2）45）によりHDL Cフォーマット化され、レイヤ1ドライバ

6

（S/T-TR）50により64Kbpsの転送速度でISDN回線の情報（B）チャンネルに送出される。また、G4受信データは、レイヤ1ドライバ（S/T-TR）50によりデジタルデータとして抽出され、HDL Cコントローラ44または45によりHDL Cフォーマットがチェックされ、誤りがないデータであることが確認された後、G4受信データとして通信制御部41に通知される。もし、誤りが検出された場合には、再送要求信号がISDN回線に送出され、正しい信号を受信するまで一定の時間、これを繰り返す。なお、この受信画像データは、デュアルポートインタフェース31を介して図1の上方のDRAM4に格納される。

【0027】G3送信データは、変復調器（MODEM）47によりPM-AM変調された後、PCMコーデック（PCM-CODEC）49によりデジタル化され、レイヤ1ドライバ50を介してISDN回線に送出される。また、G3受信データは、レイヤ1ドライバ50によりデジタルデータとして抽出され、PCMコーデック49によりアナログ化され、変復調器47により復調され、通信制御部41に通知される。なお、受信画像データは、デュアルポートインタフェース31を介して図1の上方のDRAM4に格納される。

【0028】また、送信音声はハンドセット（HND）48のマイクロホンにより音声信号に変換され、PCMコーデック49を介してISDN回線に送出される。受信音声信号は、PCMコーデック49を介してハンドセット（HND）48のスピーカに転送される。

【0029】つぎに、図2および図3を参照してISDN回線におけるユーザ・ユーザ情報要素（UUI）を説明すると、このUUIは呼設定信号内に含まれ、オクテット「1」～「4」以下のデータより成る。オクテット「1」には、ユーザ・ユーザ情報要素の識別子がセットされ、オクテット「2」にはユーザ・ユーザ内容長がセットされ、オクテット「3」にはユーザ特有プロトコルのプロトコル識別子がセットされ、オクテット「4」にはユーザ情報がセットされる。そして、この実施例において緊急通信を行う場合には、図3に示すように送信側においてそのモードを示すデータ「001」がオクテット「4」の上位3ビットにセットされ、その緊急度を32段階で示すデータが下位5ビットにセットされる。

【0030】つぎに、図4を参照して上記ファクシミリ装置の受信側の動作を説明する。まず、呼設定信号を受信すると（ステップS1）、この呼設定信号を解析し、UUIデータの有無（ステップS2）と緊急通信モードであるか否か（ステップS3）を判別する。なお、UUIデータがない場合や、あっても緊急通信モードでない場合には通常受信動作を行う（ステップS8）。すなわち、この通常受信では、通信中の場合には着端末ビジー等の理由によりこの着呼を拒否し、また、自動着信モードで動作している場合には、着信鳴動を行うことなく

受信動作を開始したり、数回の鳴動を行った後受信動作を開始する。

【0031】他方、UUIデータが存在して緊急通信の場合には、現在の動作状態を判別し、通信中の場合（ステップS4）にはユーザ情報内の緊急度と、現在設定されている緊急度を比較し（ステップS5）、新たな着呼の方の緊急度が高い場合には、現在通信中の呼を所定の手順に従って中断または解放する（ステップS6）。そして、新たな着呼の方に呼を設定し、その緊急度を記憶した後緊急通信モードで受信する（ステップS7）。また、ステップS4において通信中でない場合にも同様に、その緊急度を記憶した後緊急通信モードで受信する（ステップS7）。なお、ステップS5において新たな着呼の方の緊急度が低い場合には、通常の受信動作を行う（ステップS8）。

【0032】なお、ステップS7に示す緊急通信モードでは、緊急通信を表示部6や他の表示手段により表示してオペレータに報知したり、緊急通信の受信後にオペレータからの確認操作がキー7を介して確認された場合には、中断呼を再開し、その通信が終了後に通常モードに

戻るように構成することができる。
【0033】したがって、上記実施例によれば、緊急通信を行う場合に送信側においてそのモードとその緊急度をUUIのユーザ情報で通知し、受信側では通信中の緊急度より新たな着呼の緊急度が高い場合に、現在通信中の呼を中断または解放し、新たな着呼の方に呼を設定して受信するので、緊急通信の送信原稿を受信側に確実に送信することができる。

【0034】なお、上記実施例では、受信側において通信中の緊急度より新たな着呼の緊急度が低い場合に新たな着呼を拒否するが、この場合に、呼設定信号内に含まれる発呼者の番号を記憶して表示部8の画面に表示することにより、オペレータに報知することも可能である。また、上記実施例では、通信の緊急度をユーザ情報の下位5ビットに割り当てたが、代わりに簡単な用件を示す定形文のコードを割り当てて送信側からこのコードを送信し、受信側においてこの呼を受け付けられない場合にこのコードを記憶して表示部8の画面に表示することにより、オペレータに報知することも可能である。

【0035】つぎに、図5および図6を参照して第2の実施例を説明する。図5は、第2の実施例において用いられるUUIのユーザ情報の一例を示す説明図、図6は、ファクシミリ装置の受信側の動作を説明するためのフローチャートである。この第2の実施例では、送信側が受信側の動作モードをUUIのユーザ情報により指定し、受信側がその動作モードを受け付けられない場合にその呼を拒否するように構成されている。

【0036】図5に示すように、UUIのユーザ情報の上位3ビットには、送信側が受信側の動作モードを指定するモードを示すデータ（010）がセットされ、ま

た、下位5ビットには縮小出力や親展受信のような動作モードが32種類でセットされる。そして、受信側では図6に示すように、まず、呼設定信号を受信すると（ステップS11）、この呼設定信号を解析し、指示された端末属性（G3/G4）のチェックや回線の種類の選択などの通常の呼設定処理に加えて、自機の画像メモリであるDRAM4の残量やUUIの有無および内容等を調べることにより、通信可能性を確認する（ステップS12）。

【0037】そして、端末属性（G3/G4）の不一致等のように規格により着呼を明らかに受け付けるべきでない場合にはその着呼を拒否する（ステップS13、S17）。他方、その着呼を受け付けるべきと判定した場合には、UUIデータの有無（ステップS14）と、通信モードの指定モードであるか否か（ステップS15）と、その指定された通信モードで動作可能か否か（ステップS16）を判別する。なお、UUIデータがない場合や、あっても通信モードの指定モードでない場合や、通信モードの指定モードであってその指定された通信モードで動作可能な場合にはその着呼を受け付ける手順を実行する（ステップS18）。他方、UUIのユーザ情報により指定された通信モードで動作不可能な場合には、その着呼を拒否する（ステップS17）。

【0038】したがって、この第2の実施例によれば、送信側が受信側の動作モードを指定する場合にその旨と指定通信モードをUUIのユーザ情報により指定し、受信側において画像メモリであるDRAM4の残量が少ない場合や、送信側から指定された通信モードで動作不可能な場合には、その着呼を拒否するので、無駄な課金を防止することができる。

【0039】つぎに、図7～図9を参照して第3の実施例を説明する。図7は、第3の実施例において用いられるUUIのユーザ情報の一例を示す説明図、図8は、ファクシミリ装置の記録紙の排出部を示す構成図、図9は、ファクシミリ装置の着呼側の動作を説明するためのフローチャートである。この第3実施例では、発呼側が送信画像の種別をUUIのユーザ情報により通知し、着呼側がこの種別により記録紙を自動的に分類して排出するように構成されている。

【0040】図7に示すように、UUIのユーザ情報の上位3ビットには、送信画像の種別を通知するモードを示すデータ（011）がセットされ、下位5ビットには普通文書や重要文書のようなその種別を示すデータがセットされる。そして、図8に示すように、図1に示すレーザービームプリンタ（LB P）11の記録紙の排出口には、記録紙53を分類するためのスタッカ機構（STK）51が設けられる。なお、このスタッカ機構51は、レーザービームプリンタ11から排出された記録紙53～56をスタッカ57～59に分類するための振り分けガイド52を有し、この振り分けガイド52は、図1

に示すCPU1により制御される。

【0041】つぎに、図9を参照して上記ファクシミリ装置の受信側の動作を説明する。まず、呼設定信号を受信すると（ステップS21）、この呼設定信号を解析し、指示された端末属性（G3/G4）のチェックや回線の種類の選択などの通常の呼設定処理に加えて、自機の画像メモリであるDRAM4の残量やUUIの有無および内容等を調べることにより、通信可能性を確認する（ステップS22）。

【0042】そして、端末属性（G3/G4）の不一致等のように規格により着呼を明らかに受け付けるべきでない場合にはその着呼を拒否する（ステップS23、S28）。他方、その着呼を受け付けるべきを判定した場合には、UUIデータの有無（ステップS24）と受信画像の種別が指定されているか否か（ステップS25）を判別する。なお、UUIデータがない場合や、あっても受信画像の種別が指定されていない場合にはその受信画像を普通文書として分類し（ステップS26）、ステップS27に進む。

【0043】他方、UUIデータが存在して受信画像の種別が指定されている場合にはその種別を記憶し（ステップS27）、その着呼を受け付けて通常の呼制御手順により受信を開始し（ステップS28）、図8に示すようなスタッカ機構51により種別に応じてスタッカ57～59に振り分けて排出する。

【0044】したがって、この第3の実施例によれば、送信側が送信画像の種別をUUIのユーザ情報により通知し、受信側がこの種別により記録紙を自動的に分類して排出するので、受信側において多種多様の記録紙を用意に分類、整理することができる。なお、図7に示す例では画像の種類として32種類が示され、図8に示す例では3つのスタッカ57～59が示されているが、この数は任意である。また、この第3の実施例によれば、第1の実施例のような緊急通信の記録紙を所定のスタッカに排出することができる。

【0045】つぎに、図10～図12を参照して第4の実施例を説明する。図10は、第4の実施例において用いられるUUIの一例を示す説明図、図11は、ファクシミリ装置の発呼側の動作を説明するためのフローチャート、図12は、ファクシミリ装置の着呼側の動作を説明するためのフローチャートである。この第4の実施例では、発呼側が送信原稿の用件をUUIにより通知し、着呼側がこの送信原稿の用件を出力することにより、送信原稿の無駄な表紙を省略することができるように構成されている。

【0046】図10において、オクテット「1」には、ユーザ・ユーザ情報要素の識別子がセットされ、オクテット「2」にはユーザ・ユーザ内容長がセットされ、オクテット「3」ではユーザ特有プロトコルにセットされ、オクテット「4」では用件情報識別子により用件デ

ータを含むことが宣言され、オクテット「5」には用件データの長さがセットされ、オクテット「6」以下では用件データがIA5キャラクタコードで通知される。

【0047】発呼側では図11に示すように、操作者によりキー7（図1）を介して相手端末番号が指定され、端末属性（例えばG4ファクシミリ）と送信原稿の用件が設定され、発呼開始が指示されると、まず呼設定データを生成する（ステップS31）。ここで、呼設定データ中の着番号要素を設定する場合、相手端末番号の端末属性情報要素を「G4」にセットする。

【0048】ついで、この呼設定データをHDL Cコントローラ（HDL C-CNT（D））46に送出し（ステップS32）、タイマTを4秒にセットする（ステップS33）。続くステップS34において呼設定受付信号を受信したか否かを判別し、呼設定受付信号を受信した場合にステップS35に分岐し、通常の発呼手順を実行する。ステップS34において呼設定受付信号を受信しない場合には、ステップS36においてタイマTがタイムオーバーするまでこの呼設定受付信号を待ち、この呼設定受付信号を受信しないでタイマTがタイムオーバーするとステップS37に進む。ステップS37では最初のタイムオーバーであるか否かを判別し、最初のタイムオーバーである場合には呼設定データを再度送出し（ステップS32）、2回目のタイムオーバーである場合にはエラー処理を行う（ステップS38）。

【0049】着呼側では図12に示すように、まず、呼設定データを受信するとこの呼設定信号を解析し（ステップS41）、発番号と端末属性をそれぞれ発呼側の番号と属性として抽出する。そして、呼設定データ内のUUIを解析し、用件データがセットされているか否かを判別する（ステップS42）。用件データがセットされていない場合には通常の受信手順を実行し（ステップS43）、用件データがセットされている場合にはその用件データをUUIから抽出する（ステップS44）。

【0050】続くステップS45では用件データの印字モードを判別し、定形プリントモードが設定されている場合には、用件データと定形フォーマットにより構成される表紙データを作成し（ステップS46）、画像メモリであるDRAM4に格納し（ステップS47）、ステップS49に進む。また、ヘッダモードが設定されている場合には、相手番号と日時等とともにこの用件データをヘッダフォーマットに展開してDRAM4に格納し（ステップS48）、続くステップS49では受信画像データをDRAM4に格納する。そして、レーザビームプリンタ11により、定形プリントモードが設定されている場合にはその表紙を受信画像の前に出力し、ヘッダモードが設定されている場合にはそのヘッダを受信画像に付加して出力する。

【0051】したがって、この第4の実施例によれば、発呼側が送信原稿の用件をUUIにより通知し、着呼側

がこの送信原稿の用件を出力するので、送信原稿の無駄な表紙を省略することができ、したがって、通信料金を減少することができる。なお、この第4の実施例では、用件データをキー7を介して入力する場合について説明したが、予め準備された定形の用件を選択可能に構成してもよいし、また、OCRにより用件画像を読み取ってキャラクタコードに変換するように構成してもよい。

【0052】つぎに、図13～図16を参照して第5の実施例を説明する。図13は、第5の実施例におけるサテライト側ファクシミリ装置のUUIの一例を示す説明図、図14は、センタ側ファクシミリ装置のUUIの一例を示す説明図、図15は、サテライト側ファクシミリ装置の動作を説明するためのフローチャート、図16は、センタ側ファクシミリ装置の動作を説明するためのフローチャートである。この実施例では、センタ側ファクシミリ装置とサテライトファクシミリ装置をISDNを介して接続してシステムが構成されている。

【0053】サテライト側ファクシミリ装置のUUIでは図13に示すように、オクテット「1」には、ユーザ・ユーザ情報要素の識別子がセットされ、オクテット「2」にはユーザ・ユーザ内容長がセットされ、オクテット「3」ではユーザ特有プロトコルがセットされ、オクテット「4」ではポーリング情報識別子によりポーリングデータを含むことが宣言される。また、オクテット「5」ではポーリングデータ長がセットされ、オクテット「6」には依頼データ識別子がセットされ、オクテット「7」には依頼データ長がセットされ、オクテット「8」には依頼番号識別子がセットされ、オクテット「9」には依頼番号長がセットされ、オクテット「10」には依頼番号がセットされる。なお、オクテット「10」の依頼番号は、センタ側に対してポーリングを許可するため番号であり、IA5キャラクタコードで通知される。

【0054】センタ側ファクシミリ装置のUUIでは図14に示すように、オクテット「1」にはユーザ・ユーザ識別要素の識別子がセットされ、オクテット「2」にはユーザ・ユーザ内容長がセットされ、オクテット「3」にはユーザ特有プロトコルがセットされ、オクテット「4」ではポーリング情報識別子によりポーリングデータを含むことが宣言される。また、オクテット「5」にはポーリングデータ長がセットされ、オクテット「6」には開始データ識別子がセットされ、オクテット「7」には開始データ長がセットされ、オクテット「8」には開始番号識別子がセットされ、オクテット「9」には開始番号長がセットされ、オクテット「10」には開始番号がセットされる。なお、オクテット「10」の開始番号は、ポーリング許可のためであり、IA5キャラクタコードで通知される。

【0055】サテライト側ファクシミリ装置では図15に示すように、まず、図1に示すキー7を介したポー

リング依頼の指示の有無を調べ（ステップS51）、指示がない場合には通常の発呼手順を実行する（ステップS52）。ポーリング依頼の指示が有る場合には、まず、ポーリング依頼用の呼設定データを生成する（ステップS53）。ここで、呼設定データ中の着番号要素を設定する場合、相手端末番号の端末属性情報要素を「G4」にセットし、また、ポーリング依頼データをUUIにセットする。

【0056】ついで、この呼設定データをHDL Cコントローラ（HDL C-CNT（D））46に送出し（ステップS54）、タイマTを4秒にセットし、センタからの応答を待つ（ステップS55）。続くステップS56において呼出信号を受信したか否かを判別し、呼出信号を受信した場合にステップS57に分岐し、ポーリング依頼がセンタ側により確認されたものと判断し、呼を解放してポーリング待機状態となる。

【0057】ステップS56において呼出信号を受信しない場合には、ステップS58においてタイマTがタイムオーバーするまでこの呼出信号を待ち、この呼出信号を受信しないでタイマTがタイムオーバーするとステップS59に進む。ステップS59では最初のタイムオーバーであるか否かを判別し、最初のタイムオーバーである場合には呼設定データを再度送出し（ステップS54）、2回目のタイムオーバーである場合にはエラー処理を行う（ステップS60）。

【0058】センタ側ファクシミリ装置では図16に示すように、まず、呼設定データを受信するとこの呼設定信号を解析し（ステップS61）、発番号と端末属性をそれぞれ発呼側の番号と属性として保存する。そして、呼設定データ内のUUIを解析し、ポーリング依頼データが含まれているか否かを判別し（ステップS62）、ポーリング依頼データが含まれていない場合には通常の受信手順を実行する（ステップS63）。

【0059】他方、ポーリング依頼データが含まれている場合には依頼の内容が有効か無効かを判別する（ステップS64）。ポーリング依頼データが無効の場合、すなわちポーリング許可されていない相手からの依頼である場合には呼を解放する（ステップS65）。ポーリング依頼データが有効な場合には確認信号として呼出信号を送出し（ステップS66）、呼を解放する（ステップS67）。そして、相手番号と、相手属性とポーリング開始指示を呼設定データの着番号と、端末属性とUUIにセットして呼設定データを生成し（ステップS68）、この呼設定データを送出し（ステップS69）、以降、通常のポーリング手順によりサテライト側ファクシミリ装置からの画像を受信する（ステップS70）。

【0060】したがって、この第5の実施例によれば、サテライト側ファクシミリ装置では、送信原稿がセットされてポーリング依頼の指示を受けた場合等に、センタに対してポーリングを依頼するので、送信原稿がセット

されていない場合等の無駄な通信料金を防止することができる。

【0061】

【発明の効果】以上説明したように、本発明は、ユーザ・ユーザ情報要素に緊急通信モードがセットされ、受信側が緊急通信モードで動作するので、緊急通信の送信原稿を受信側に確実に送信することができる。また、ユーザ・ユーザ情報要素に動作モードがセットされ、受信側がこの動作モードを動作不可能の場合に呼を拒否するので、無駄な通信料金の発生を防止することができる。さらに、ユーザ・ユーザ情報要素に送信原稿の種類がセットされ、受信側がこの種類において受信原稿の記録紙を振り分けるので、受信側において多種多様の記録紙を用意に分類、整理することができる。また、ユーザ・ユーザ情報要素に送信原稿の用件がセットされ、受信側がこの用件を受信原稿の表紙またはヘッダとして出力するので、送信側の無駄な表紙を省略することができ、したがって、無駄な通信料金の発生を防止することができる。

【0062】また、ファクシミリ通信システムでは、サテライト側ファクシミリ装置は、原稿のセットされている場合や送信画像データが存在する場合のように画像データを送信可能な場合に、ユーザ・ユーザ情報要素にポーリング依頼をセットした呼設定信号をセンタ側のファクシミリ装置に送信するので、サテライト側ファクシミリ装置において画像を送信不能の場合の無駄な通信料金の発生を防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るファクシミリ装置の一実施例を示すブロック図である。

【図2】ISDN回線におけるユーザ・ユーザ情報要素(UUI)を示す説明図である。

【図3】

ユーザ情報のコード化

ビット	8	7	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									</
-----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

【図3】図2のユーザ情報の一例を示す説明図である。

【図4】図1のファクシミリ装置の着呼側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図5】第2の実施例において用いられるUUIのユーザ情報の一例を示す説明図である。

【図6】第2の実施例においてファクシミリ装置の着呼側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図7】第3の実施例において用いられるUUIのユーザ情報の一例を示す説明図である。

【図8】第3の実施例においてファクシミリ装置の記録紙の排出部を示す構成図である。

【図9】第3の実施例においてファクシミリ装置の着呼側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図10】第4の実施例において用いられるUUIの一例を示す説明図である。

【図11】第4の実施例においてファクシミリ装置の発呼側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図12】第4の実施例においてファクシミリ装置の着呼側の動作を説明するためのフローチャートである。

【図13】第5の実施例におけるサテライト側ファクシミリ装置のUUIの一例を示す説明図である。

【図14】第5の実施例におけるセンタ側ファクシミリ装置のUUIの一例を示す説明図である。

【図15】第5の実施例におけるサテライト側ファクシミリ装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【図16】第5の実施例におけるセンタ側ファクシミリ装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

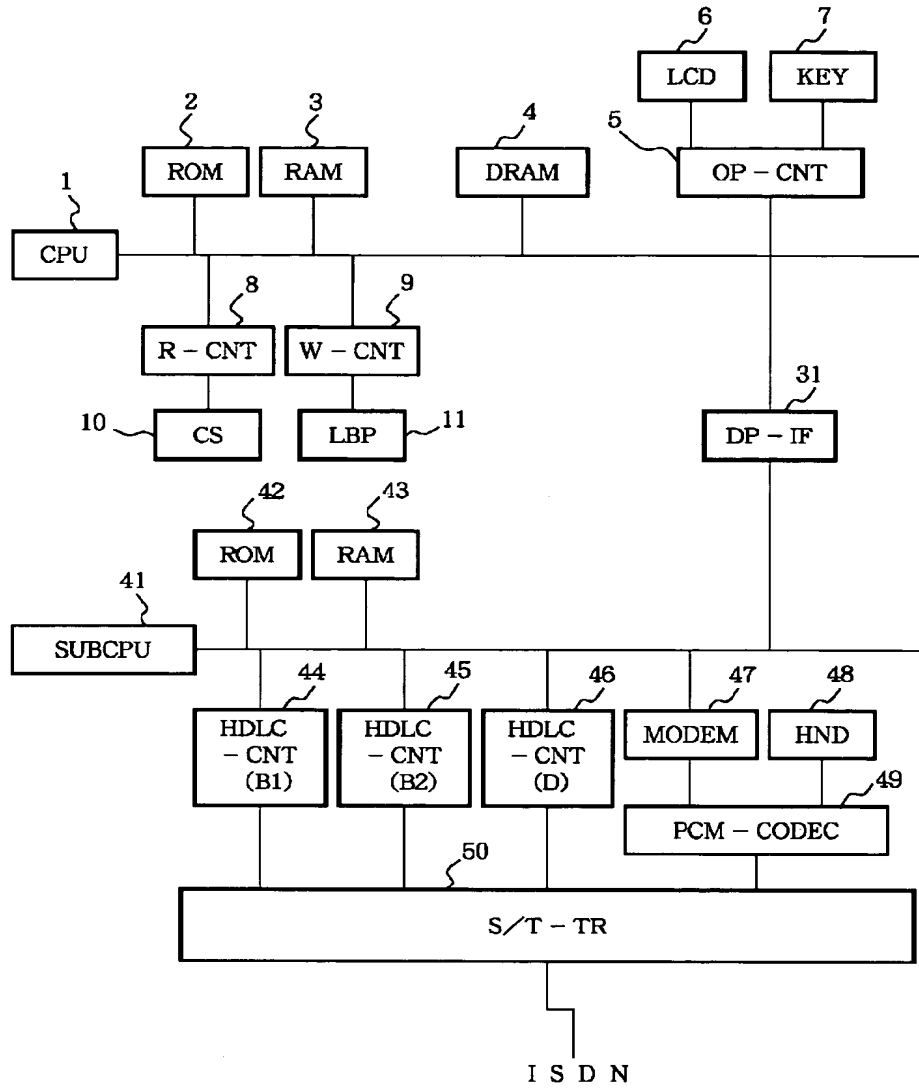
1 CPU (中央制御部)
41 SABCPU (通信制御部)

【図5】

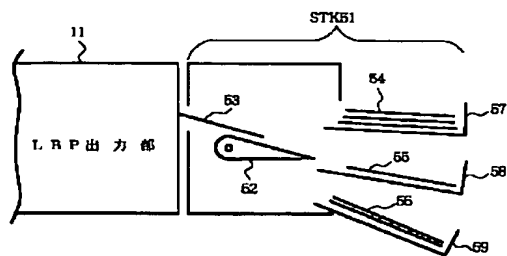
ユーザ情報のコード化

ビット	8	7	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
-----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【図1】



【図8】

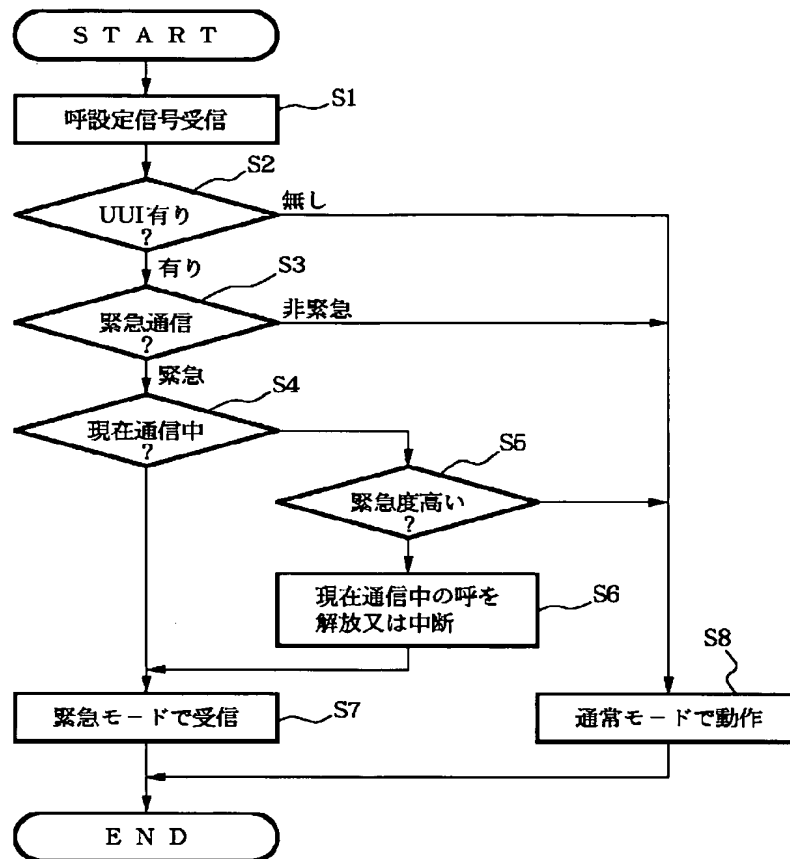


	ビット	8	7	6	5	4	3	2	1	内容
オクテット 1		0	1	1	1	1	1	1	0	ユーザ・ユーザ 情報要素識別子
オクテット 2		0	0	0	0	0	0	1	0	ユーザ・ユーザ内容長
オクテット 3		0	0	0	0	0	0	0	0	ユーザ特有プロトコル プロトコル識別子
オクテット 4		0	0	0	0	0	0	0	0	用件情報識別子
		ユーザ情報								

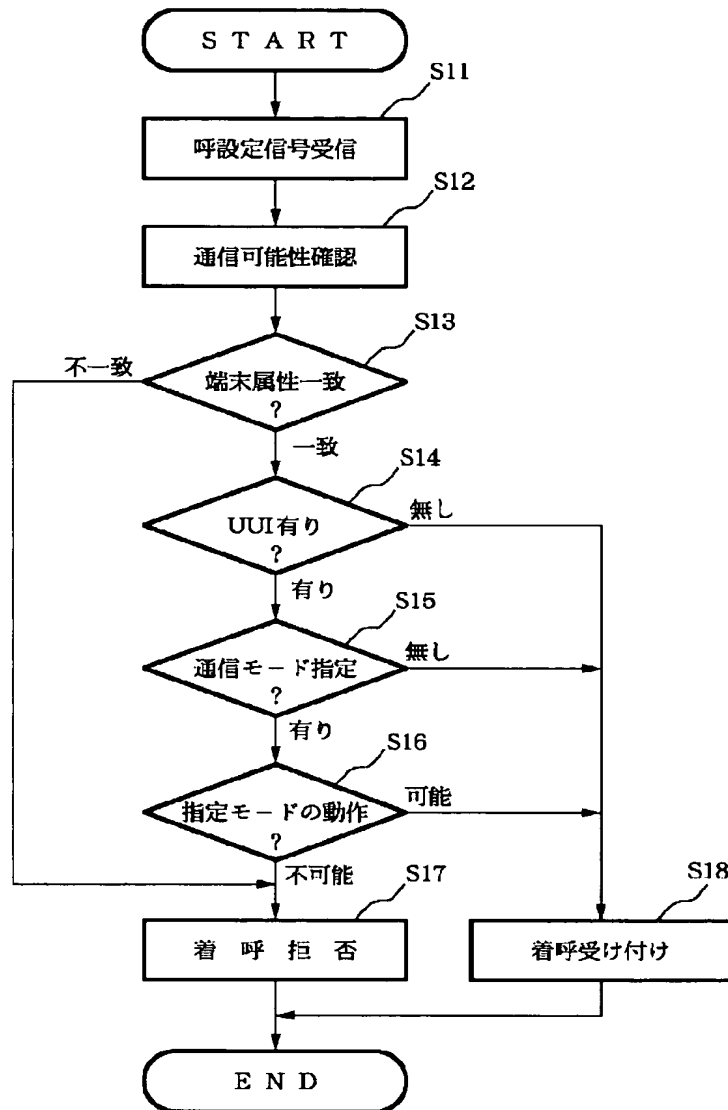
ユーザ情報のコード化

—854—

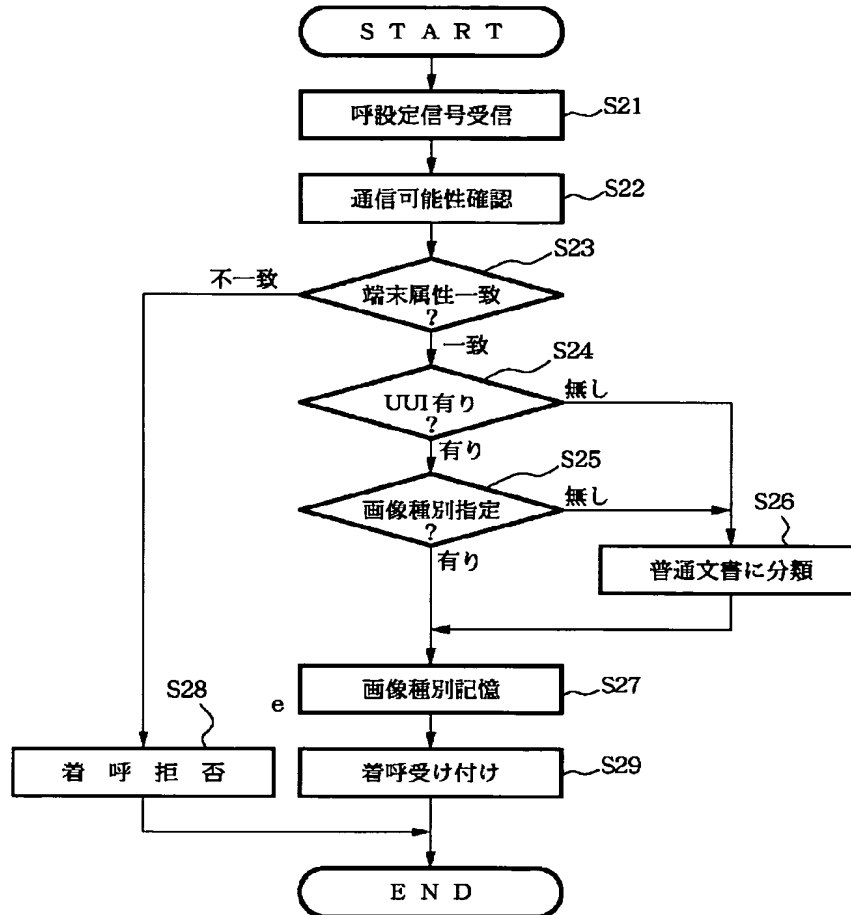
【図4】



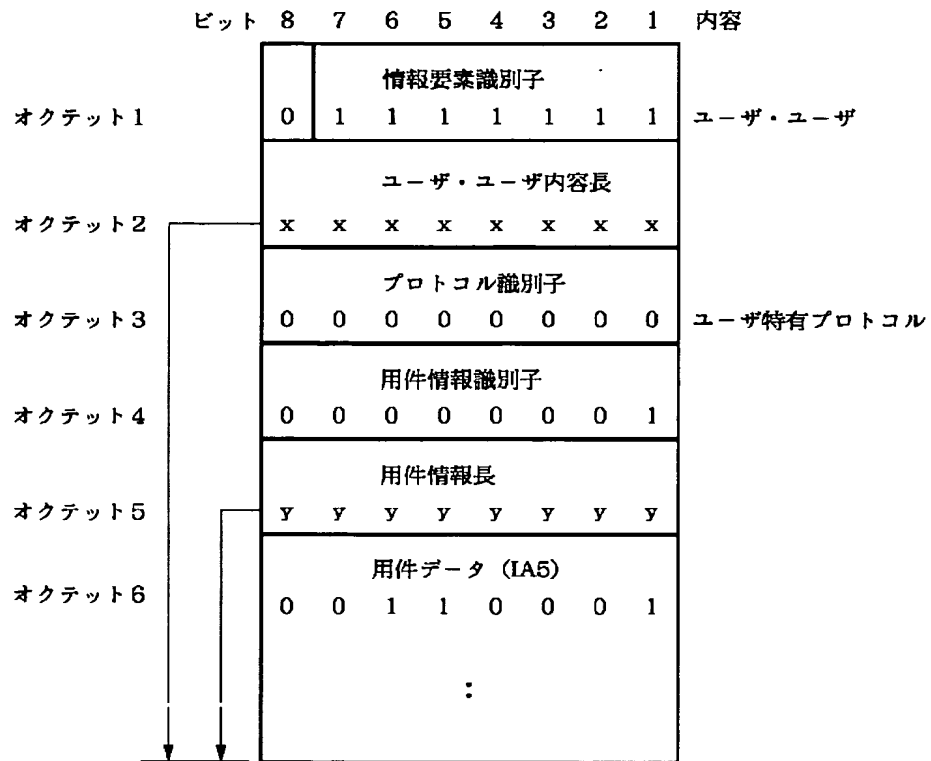
【図6】



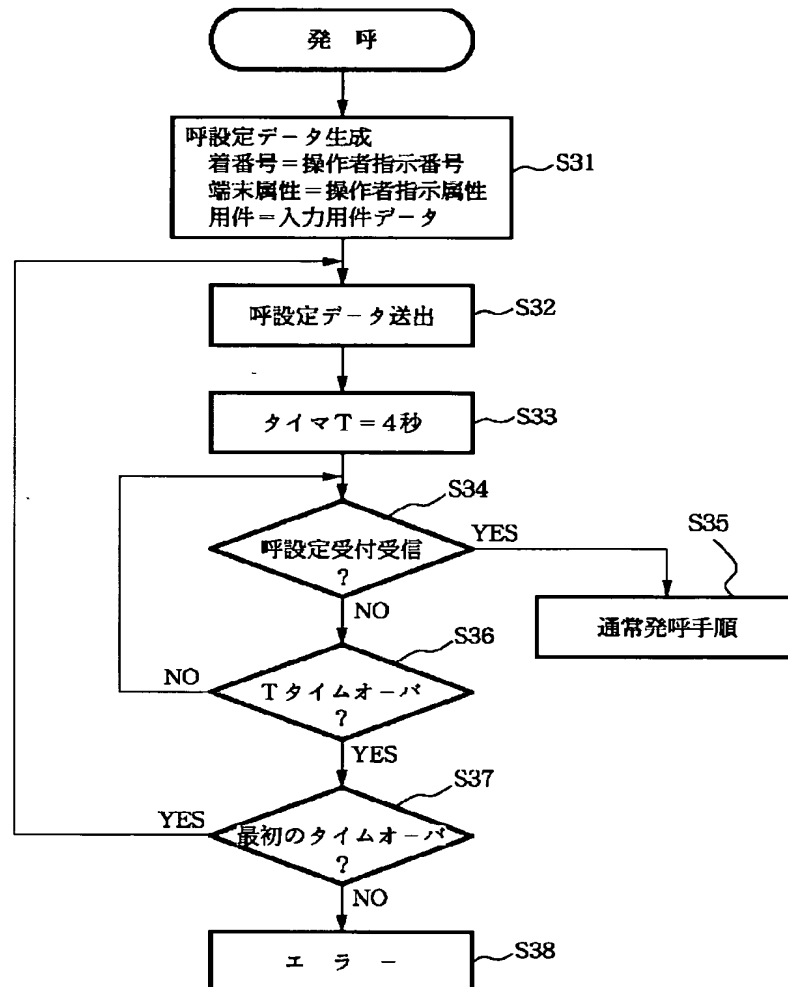
【図9】



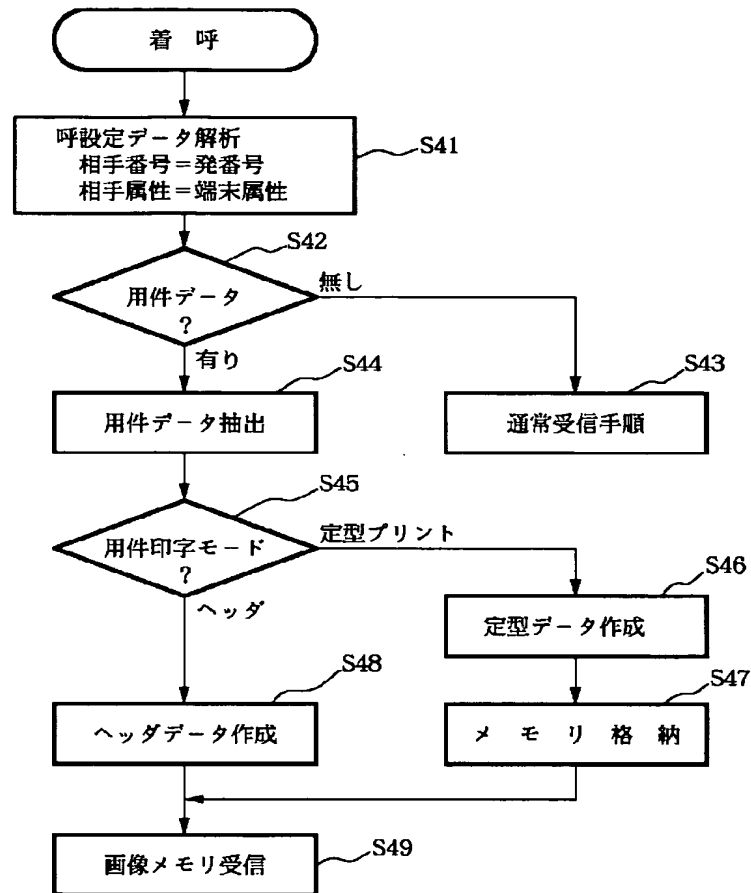
【図10】



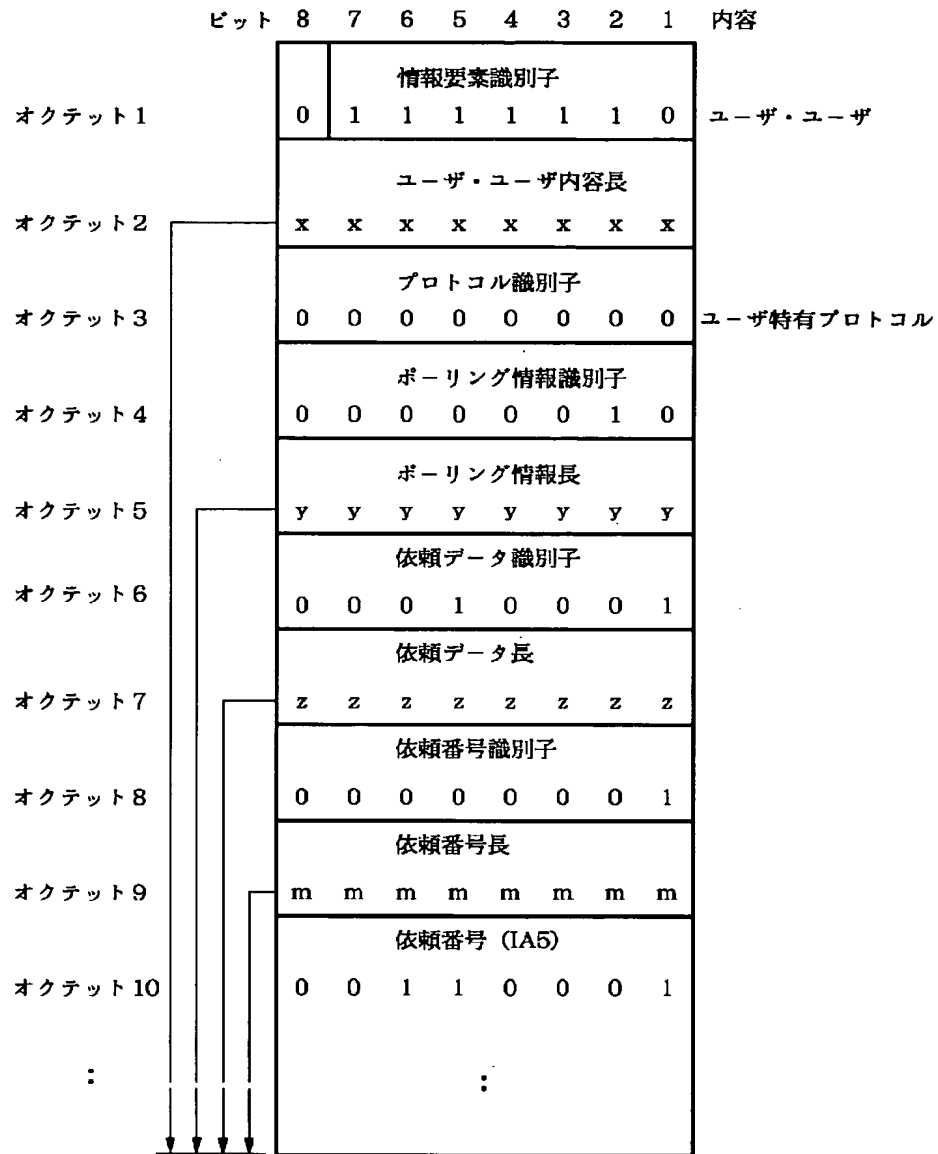
【図11】



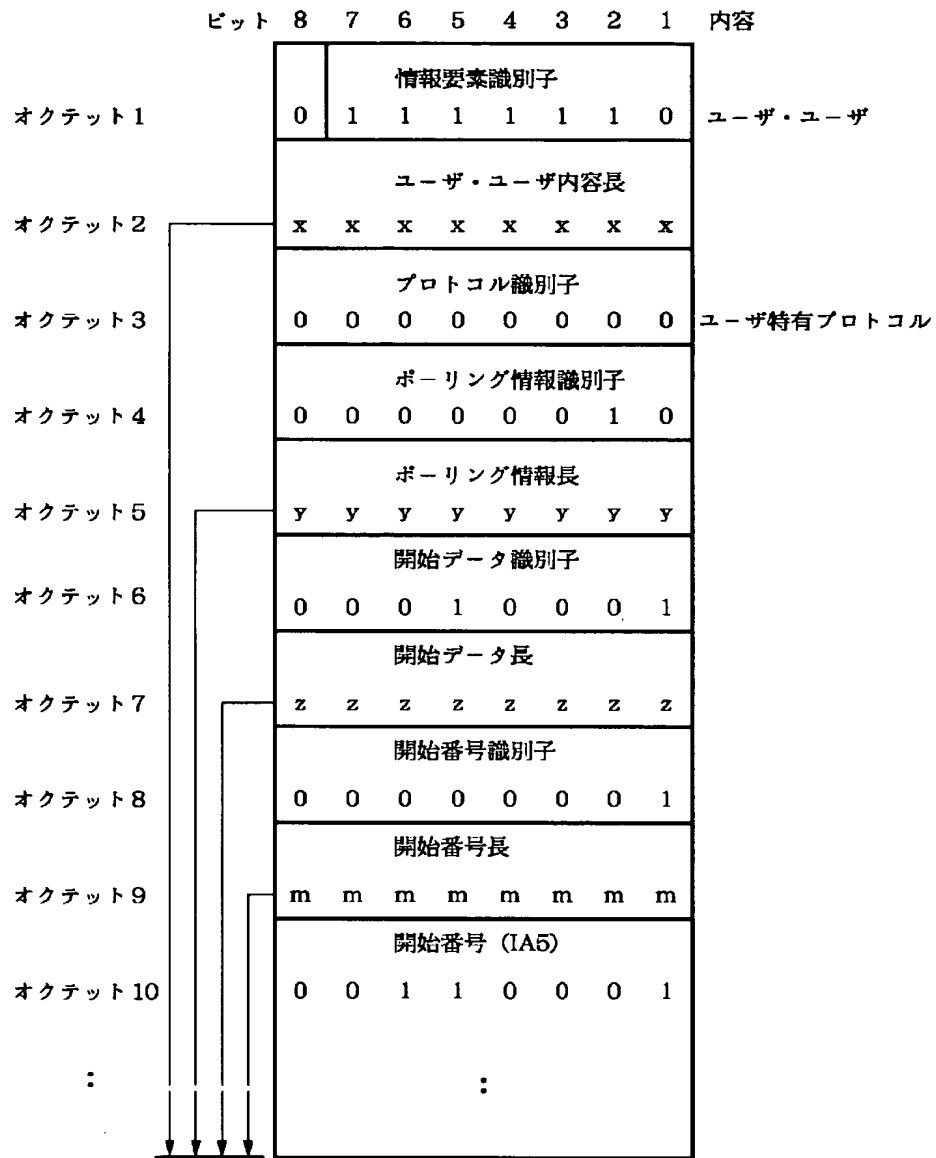
【図12】



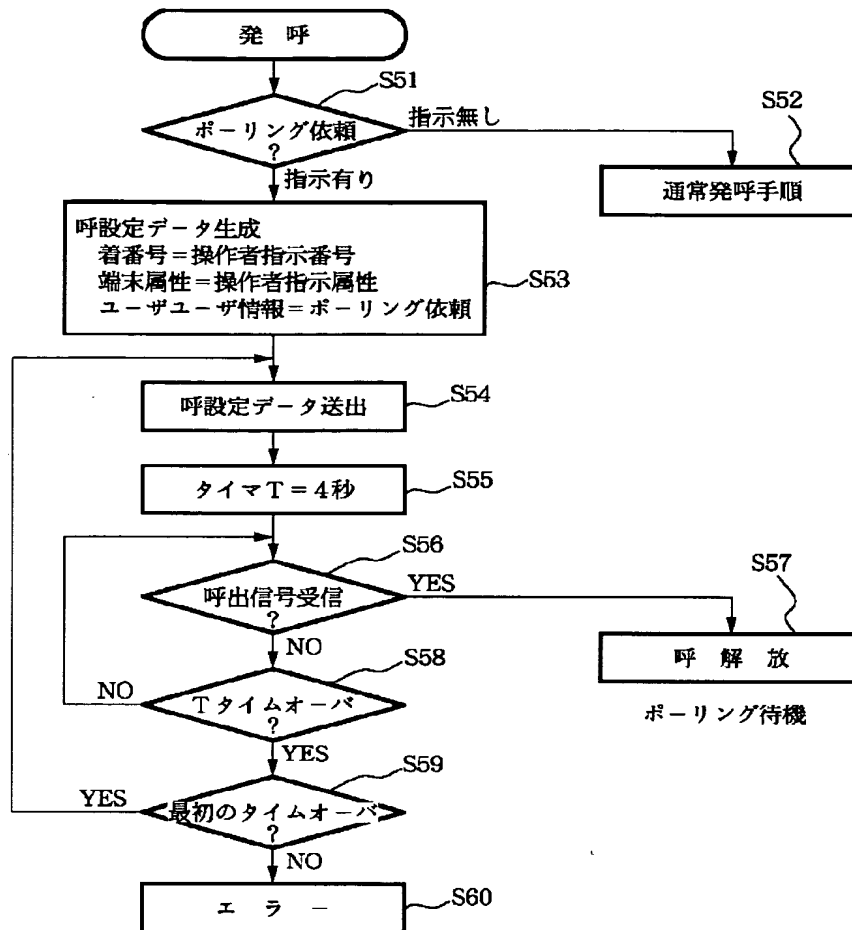
【図13】



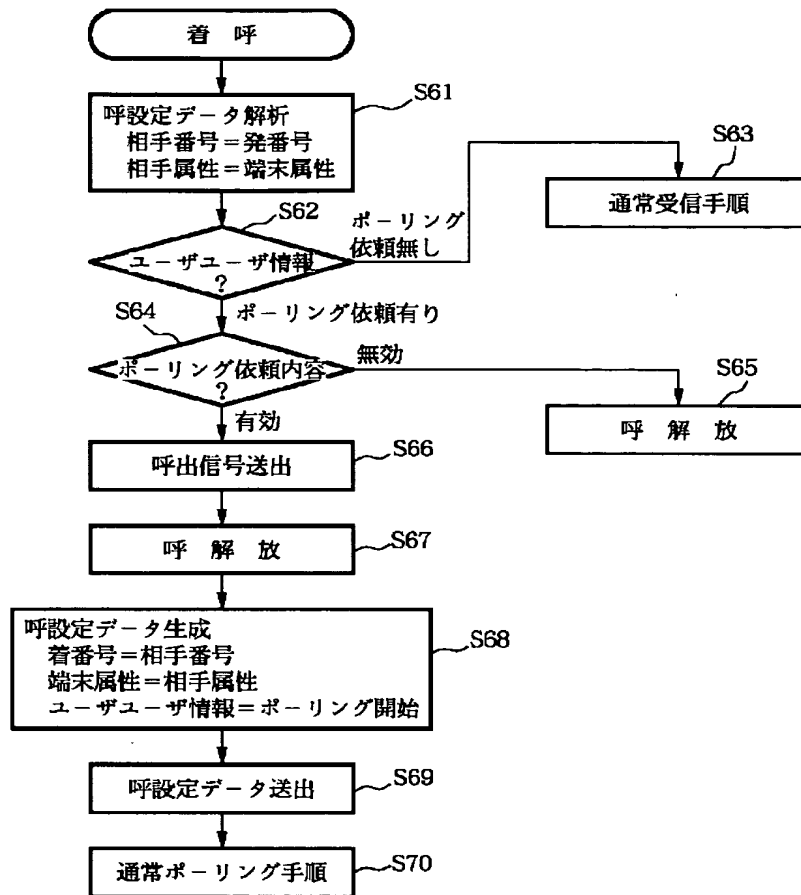
【図14】



【図15】



【図16】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁵

H 0 4 L 29/06

H 0 4 M 11/00

// H 0 4 N 1/34

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

3 0 3

8627-5K

2109-5C